

【キーワード】

〔施設種別〕 高齢者施設 障がい者施設 子ども施設 住宅
 〔運営主体〕 市区町村 法人 NPO 個人 〔補助金〕 内閣府 国土交通省 厚生労働省
 〔建物形式〕 1棟単体型 複数棟集合型 団地型 〔建物状況〕 新築 増築 改修 一部改修 既存
 〔対象者〕 高齢者 障がい者 子ども ファミリー 多世代



写真1. 外観写真

1991年に川越に開設された周産期医療として小児科や産婦人科、皮膚科の診療科目を有している病院である。2006年に小児科専門病棟として新館が増築され2つの病棟で運用がなされている。患者らにくつろぎ、安心感を感じてもらおうよう、全体的な内装・外構・取り組みとして「病院」ではなく「ホテル」のような設えが施されていることが特徴である。

■施設情報

所在地：

施設種別：新生児・小児・産婦人科専門病院

診療科目：産婦人科 女性健康外来 婦人科一般外来、
 更年期外来、子宮ガン検診、不妊症外来、
 家族計画外来、婦人科手術、
 乳がん検診センター
 小児科 皮膚科 形成外科
 麻酔科 乳児健診・育児相談

運営主体：有限会社アイワメディカルサービス

設計：仙田満+環境デザイン研究所+大成建設

敷地面積：8026.49㎡

建築面積：3152.08㎡

延床面積：8283.71㎡

構造・階数：地上4階地下1階鉄筋コンクリート造

病床数：50床

運営開始：1991年5月

■運営概要

1973年に川越市新宿町に産婦人科病院を設立して以来小児科や皮膚科などの診療科目の増設等を行い地域の周産期医療に携わり、長年の経験を「AIWA STORY」として患者の満足度とそれに対する医療従事者の対応を万全とすることを理念に積極的な医療活動と社会貢献を行っている。1991年(H3年)5月川越市古谷上に現在の

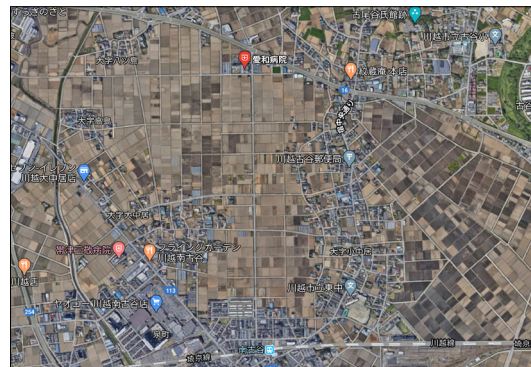


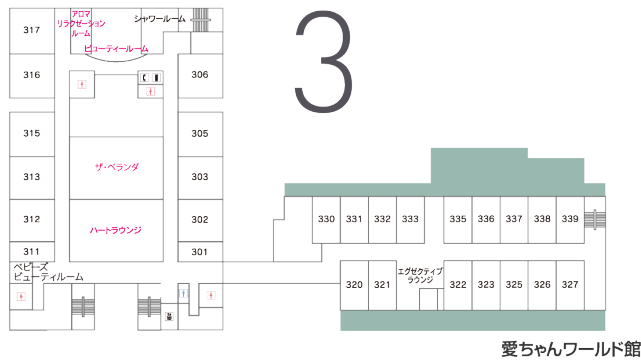
図1. 周辺状況 (googlemapより引用)

病院へは路線バスとして本川越駅発のもの、独自のシャトルバス(南古谷駅経由)によってアクセスできる。



写真2. 愛ちゃんワールド館1階受付前

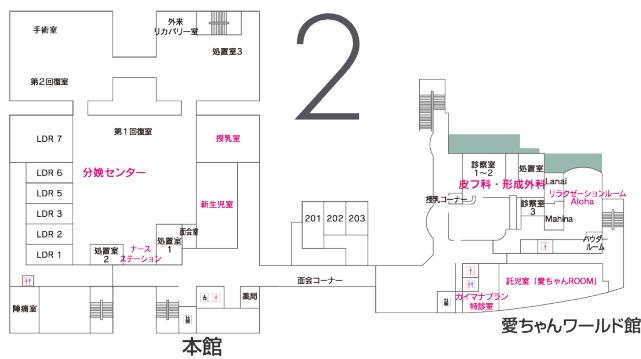
色とりどりのファニチャーとガラスによって明るい雰囲気演出している。屋外に出ることも可能。



愛ちゃんワールド館

写真2. 3階平面図（愛和病院 HP より引用）

本館・新館ともに病棟部門として運用されている。両館ともに病室前はラウンジなどの共用スペースが施されている。

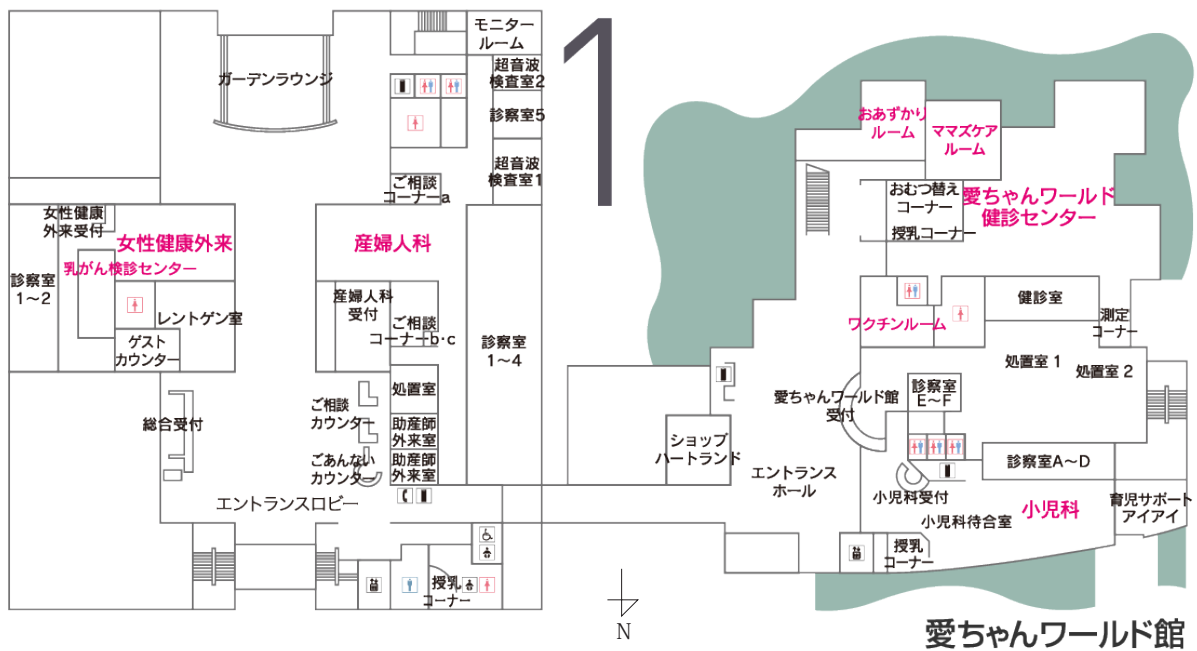


本館

愛ちゃんワールド館

写真3. 2階平面図（愛和病院 HP より引用）

本館では産科のLDR、新館では幼児の外来、託児所等として運用。



愛ちゃんワールド館

図4. 配置図兼一階平面図（愛和病院 HP より引用）

本館では産科、新館では小児科と機能が分けられていることから各々のエントランスがあり、上階は廊下（面会コーナー含む）で繋がる。

愛和病院移転新築オープン、2006年（H18年）10月愛和病院新館「愛ちゃんワールド館」新築オープンが行われ、現在までに至る。新生児は無菌で生まれることから病気にかかりやすいという観点から感染予防として周産期医療（妊娠から幼少期疾患）の一連までみることを愛和グループ管轄の施設で完結できることを目標としている。特に計画上では疾患をもたない新生児ともっている新生児を分けることが必要だと病院スタッフは語る。疾患をもたない新生児は検診センター・ワクチンセンターへ、疾患を持つ新生児（発熱している新生児）は感染症の有無に応じて別室移動の対応をとっている。病院建物を活かすのは人であり、医療の安全を保証できる医療者と患者らの満足度によるものであると語っている。

■施設概要

前述した2006年の新館「愛ちゃんワールド館」が本館に対して西側に増設され

現在に至っている。本館では産婦人科、新館では小児科というように外来部門として開かれている。全体の施設内・外構はいわゆる「病院」という雰囲気ではなく、ガラスの多用による景色がみえるような演出、色とりどりのファニチャー、リラクゼーションルームの設置などによりホテルのような雰囲気を漂わせている。ホテルのような雰囲気により、患者とその家族のリラックス、安心感、幸福感といった感情を持ってもらうことが周産期のトータルケアとなるという理念を持ち、内装メンテナンスに注力している。特に新館の愛ちゃんワールド検診センターでは、床は桐で作られ、新生児・幼児がハイハイしたり、ころんでもよいように作られている。全面を大きな窓に囲まれ、四季折々の景色が感じられる、くつろげる空間を目指している。

見学時の設計者へのヒアリング (2013年4月27日)

○病院内雰囲気に関して

「病院」という雰囲気ではなくホテルのような雰囲気に設えられている。患者らがリラックス、幸福感を持つことができると考えられる。緑を用いつつ、癒やしや快適といった言葉で表現できる。

○安全・衛生面

看護部では器具の整理や予防接種のスケジュールについて話す、または教えるなどが主に行われていた。産科患者の手当てに関しては個室・多床室のスタッフはまた別のスタッフが手当てを行う。

○建物の維持管理上の工夫点

法令による点検（水回りの設備点検含む）は外部業者の委託によって行われている。施工に関しては本館では清水建設、新館では大成建設が行っている。停電時の水回りに異常を来さないよう、浄化槽のメンテナンス（2週間に1回）や日常の定期循環点検が必要になる。避雷器を備え付けることで対策をとっている。内装メンテナンスにも注力している。特に省エネ対策でスタッフスペースの電灯の間引きを行った。定期メンテナンスの時間は限られていることから清掃の時間も限られている。



写真4. 愛ちゃんワールド健診センター入り口

検診センターは幼児が床に触れることを想定した安全管理として外履きを脱ぐ必要がある。



写真4. 本館3階病室 3床室



写真6. 健診センター内の利用者・スタッフの様子

健診センターは赤ちゃんが最もよく触れる床に無垢の桐材を使用し、暖かく柔らかな空間づくりが意図された。

参考文献

- 1) 愛和病院 HP (<http://www.aiwahospital.or.jp/>)
2020年6月8日参照
- 2) 環境デザイン研究所 HP 紹介 (<http://www.ms-edico.jp/works/474/>) 2020年6月8日参照
- 3) 見学・ヒアリング 見学日：2013年7月18日

○建物に関する良い点

検診センターのシンボルとして子宮のオブジェが飾られている。四季折々の風景が見られる窓は長時間勤務のスタッフにとってリラックスできると考える。

いやしの空間では、オルゴールの環境音楽がかけられており幼児は泣かず母もリラックスできる風景が観察できた。

○建物に関する悪い点

掃除の観点からガラスが用いられてうることから濡れ拭き、乾拭きと作業の工程が増え、時間がかかることが予想される。

アトリウムに関しては清掃が行き届かず、茶色くなっていた。ホテルのようなリラックスできる雰囲気を阻害する要因になりかねない。吹抜けにものを投げた子がいた。

○その他の留意点

気分転換、広がりができる、キャラクターを利用
ナースは帽子をしていない。一緒にくつろぎやすい雰囲気を作ろうとしている。会計士がショップの横にいるためくつろぎ・安心の雰囲気が崩れてしまう可能性がある。病状に応じて分けたいという観点から別にしたいと考える。面会ができる場所に関しては、14:00~20:00であり、母のみ朝と昼に行うことができる。身近にできるようにゾーンごとに分かれている。